

慶応二年八月七日より慶応二年八月十一日まで

P8310614 right

来りし旨、

七日 巳 雨終日午震本半過より暴風雨

出 殿、詰番、明日惣出仕有之、(薄晩退出) □ 濟平館也、藤山稽古に來りし旨、周助養生不相叶、没故
せし旨実本日昼八ツ時前の趣、今朝給分外に手当金等兼ね □ 遣せし旨、好機なりき

八日 午 朝晴猶烈風夕前風

風雨見廻として匠工三四名來る破損所を補はしむ、出 殿、御不例、且一橋中納言殿

御相続の義、被 仰出物出仕し召し、野宮坂地より病による先達て帰府せし由にて來り盃(*)箱
を贈り□し旨、長藏來り懷□三本研鞘銘入等出來持參、直ぐに代料渡し遣す、齊藤(哲) 身分
の義に付來り申至りし旨、□□同断の義にて來り、梨実持參不面、周輔方へ両婢に遣す、

P8310614 left

九日 未 晴

宅調、今朝周助出棺の旨届、聞る、河内相州來り面す、野宮へこの謝として白かなきん

一反を遣わす、正革來る常太郎身分の義、問合せ也

十日 申 晴

野宮(市) 來り面す、富沢叔母來る、生乾鱈二分小品添持參、孫女りう下宿せし旨等咄有之

代詰番、黄昏退出、木村甲州來り □ □ 欧產品の謝也とて

の謝也とて生緒一疋、絹肩衣地を贈らる、正革、稽古に來る、常太郎來りし旨、保三來りし旨

十一日 酉 陰漸晴申立て暁金港より御用狀到來、本日仏人シペリオン出府面晤いたし度、候申立の段申來、素より為差為替事件
暁金港より御用狀到來、本日仏人シペリオン出府、面晤いたし度、申立の段申し來る、素より為差事件にも無しに

* 二 鮎 (よう) 農夫の弁当箱

(内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。